〔様式　1〕

事 務 事 業 評 価 表

平成１４年度	主要事業計画対象の有無	有		電話	042（751）9107
担当部課名	消防本部	消防総務	課	施設	班
事務事業名	消防庁舎維持補修費			事業コード	23130

1 総合計画における位置づけ

政　策　名	Ⅱ　第　3　章	安全に暮らせる都市の実現をめざします	事業開始年度	
基本施策名	第　1　節	災害に強いまちづくり	～63	年度
施　策　名	第　3　施策	消防力の強化		

2 実施根拠及び関連法令等

消防法、消防組織法（第２０条　消防長官の助言等）　→　消防力の基準（消防庁告示第１号）

3 事業概要

（１）事業の目的

災害発生時の被害の軽減を図るため、消防活動の拠点となる消防署々の施設及び設備の不具合箇所の修理等を行い適正な維持を図る。（１次経費分）
消防力の強化充実、施設の保全、各分署間の格差是正及び女性消防職員の配置を考慮した施設の拡充を図る。（２次経費分）

（２）対象（誰、何）

市民全般

対象数　６１万市民

（３）平成13年度事業の内容

施設の機能を保持するため修繕及び工事を行った
○庁舎等維持修繕（不特定分）　８，３２７千円
○防災消防訓練場訓練塔修繕　９，８７０千円
○東林分署屋上防水等修繕　３，９９０千円
○相武台分署仮眠室個室化改修工事９，０３０千円
○　〃　電気設備工事　１，３６５千円
○　〃　機械設備工事　６，６１５千円
○仮眠ベッド（女性用）等購入費　８６８千円

（４）総合計画･実施計画における概要

なし

（５）個別計画の概要

計　画　名				
計画年次		年度～		年度

4 評価指標

	①	②	③
指標名	庁舎等維持修繕件数		
指標式	庁舎等維持修繕件数		
指標設定の意図	庁舎等維持修繕件数		

5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

		平成11年度 実績	平成12年度 実績	平成13年度（評価対象年度） 実績		平成13年度（評価対象年度） 目標		平成14年度 目標
指　標　①		86	88	a	90	b	90	90
指　標　②				c		d		
指　標　③				e		f		
事業費	決算（予算）額	25,465	21,796	40,065		40,087		36,929
	人員・時間数	６１４ｈ	５６０ｈ	６１４ｈ		６１４ｈ		５６０ｈ
	人　件　費	2,567	2,340	2,567		2,567		2,340
	その他経費	0	0	0		0		0
	合　　計	28,032	24,136	42,632		42,654		39,269
特　定　財　源		0	0	0		0		0

6 個別評価

(1) 達成度･･･目標をどれだけ達成したか

評 価		
A	A：達成している　（α≧100%）	α＝①、②、③の平均値 ＝ 100.0%
	B：一部達成していない（100%>α≧80%）	
	C：達成していない　（80%>α）	

①	②	③
a 90.0 / b 90.0 ×100= 100.0%	c / d ×100=	e / f ×100=

理由：消防活動の拠点施設としての建物及び設備の機能維持については、災害時に支障がきたさない様に配慮し行なえた。

(2) 必要性･･･時代変化に適応した事業内容か

評 価		理由：
A	A：適応している	複雑多様化する災害に備えるという意味においても、施設の機能維持は欠かせないものである。
	B：一部適応していない	
	C：適応していない	

(3) 経済性･効率性･･･費用対効果は妥当か

評 価		理由：
B	A：妥当である	現状は主に支障が生じた部分に修繕を実施しているが、経年劣化等に対応するためには、事前に計画的に修繕を実施した方が効率的と考えられる。
	B：一部妥当でない	
	C：妥当でない	

(4) 事業の代替性･･･県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か

評 価		理由：
A	A：代替の可能性ない	基本的に市町村単位で消防全般の責務を負っており、県･民間との分担及び転換の可能性はない。
	B：代替の可能性低い	
	C：代替の可能性高い	

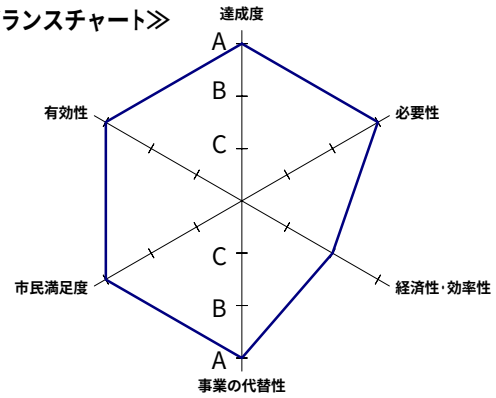
(5) 市民満足度･･･対象市民の満足は得られているか

評 価		理由：
A	A：満足できる	消防庁舎を適正に維持補修することにより、災害発生時に早急な対応をとることができる。
	B：一部満足できない	
	C：満足できない	

(6) 有効性･･･当該事業は上位の施策を実現する上で有効か

評 価		理由：
A	A：有効である	複雑多様化する災害に対応するためには、その拠点となる施設の維持管理は消防力の強化面からも必要である。
	B：一部有効である	
	C：有効でない	

≪評価バランスチャート≫



成果向上の余地

☑ ある
☐ ない

説明：
築30年近くの建物など、設備的にも老朽化が進んでいる施設もある中、施設の機能維持は災害に対応するためにも欠かせないものである。

コスト改善余地

☐ ある
☑ ない

説明：
年々災害が増加していることなどから設備機能の維持補修コストを減らすことは難しい。

7 総合評価

評 価		他自治体の類似事業との比較
	AA	他都市においても同様に執行している。
	★★★★☆	

今後の進め方		説明
☑	継　続	本事業に関しては、24時間災害発生時において瞬時に対応するために、消防活動の拠点施設として、施設の維持補修は必要不可欠である。
☐	見 直 し	
☐	廃　止	
☐	完　了	

8 二次評価における変更点